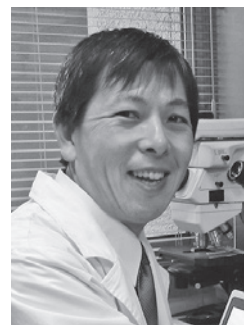


## 新任教員紹介

New teacher  
introduction

### 解剖学講座(神経形態学部門)



教授 勝山 裕

このたび2016年1月1日付けで解剖学講座・神経形態学部門教授を拜命いたしました。解剖学は医学教育の基礎であり、与えられた職責の大きさに身も心も引き締まる思いです。

私は金沢大学理学部を卒業後、大学院、通産省工業技術院、米国留学の間は、動物初期胚を用いた発生生物学的研究を行いました。DNA操作の基礎を京都大学佐藤 矩助教授(当時)の研究室で学び、さらに東京都立大学西駕秀俊助教授(当時)から博士課程を通してほぼマンツーマンで指導を受けました。これまで研究を進めていく上でモレキュラークロニング技術は強力な武器となりました。学位取得後、研究員、ポスドクの期間には胚操作技術を習得し、機能から新規遺伝子の同定を試み、留学時にはWnt受容体の同定やTGF- $\beta$ /NodalとBMPシグナルの遺伝子発現制御の違いを与える分子機構の解明といったプロジェクトに加わりました。

米留学ビザが切れる3年目が終わる頃に神戸大学神経発生学分野(旧第一解剖)の寺島教授からお声をかけていただきました。人体解剖学というそれまで無縁の分野に足を踏み入れることに不安を感じながらも寺島先生の人柄に魅力を感じ、解剖学講座の助手になり講義・実習を行いました。最初の2年ほどは解剖学の勉強で手一杯でしたが、私と一緒に研究をしたいという学生が現れたのを機に、理研CDBの客員研究員にいただき、大学と理研の間を行き来しながら研究を進めました。寺島教授が神経解剖学的解析を行って

いたReelin-Dab1シグナルについて変異マウスとゼブラフィッシュを用いた研究を開始し、2010年に東北大学医学部に脳解剖学講師として異動しました。神戸で作製したノックアウトマウスや抗体を携えて仙台に乗り込んだのですが、研究を開始した矢先に大きな地震に見舞われ、かなりの研究試料を失いました。研究面では困難に遭遇しましたが、教育の面では講師の立場であるにもかかわらず、脳解剖学という1つの科目のシラバス作成、講義、実習、試験問題の作成・実施・評価の全てを担当し大学教員として経験を積む事が出来ました。大和田先生が東北大学解剖学教授に就任された際に、解剖学講座に再び在籍することとなり、仙台でも脳だけでなく全身の解剖の講義と実習指導を行いました。

滋賀医科大学から採用のご連絡をいただいた時に、寺島教授から「教育から逃げるな」と、一方で大和田教授からは「教育に逃げるな」という言葉をいただきました。敬愛するお二人の解剖学者がおっしゃる申し合わせた様によく似た、しかし真逆の言葉が意味することは同じであり、「解剖学教授として研究と教育の両方を手を抜かずにやれ」ということであります。浅学の身で大学教員として研究者として人間として未熟ではありますが、滋賀医科大学における教育と研究に全力で貢献してまいります。皆様のご指導ご鞭撻ご協力を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

### 経歴

1991年 3月 金沢大学理学部卒業  
1993年 3月 高知大学大学院理学研究科修士課程修了  
1996年 3月 東京都立大学大学院理学系研究科博士課程修了  
1996年 4月 通産省工業技術院 研究員  
1999年 10月 Harvard Medical School, Children's Hospital Research Fellow  
2000年 10月 University of California, Irvine Postdoctoral Fellow

2002年 11月 神戸大学大学院医学系研究科神経発生学分野(旧第一解剖)助手  
2005年 4月 神戸大学大学院医学研究科神経発生学分野 助教  
2010年 10月 東北大学医学部医学科 脳解剖学 講師  
2015年 10月 東北大学大学院医学系研究科器官解剖学分野 准教授  
2016年 1月 滋賀医科大学医学部医学科解剖学講座神経形態学部門 教授